



「1年生を迎える会」開かれる

先日（4月27日）、「1年生を迎える会」が行われました。1年生は、5年生がつくってくれたメダルを首に提げ、6年生のお兄さんお姉さんに手をつないでもらって入場しました。ちょっと照れくさいような、晴れがましいような表情の1年生を、2年生以上の子どもたちが大きな拍手で温かく迎えてくれました。

2年生からは、自分たちが育てたアサガオから採った種が贈られました。丹精込めて育てたアサガオの種には、植物を育てる楽しさや花が咲いたときの喜びなどを味わってもらいたいと願う、後輩への思いが詰まっています。

児童会役員からは、歓迎の言葉と境野小学校生活クイズがありました。クイズでは、あいさつの仕方や授業の受け方、知らない人に声をかけられたときの対応の仕方など、時勢や1年生の発達段階に合った内容を、演技を交えて分かりやすく教えてくれました。

児童会役員の子どもたちは、ここ数日間、休み時間返上でこの企画や準備に当たってくれました。1年生のためを考えたリーダーシップがとれたと思います。

こうした先輩たちの温かな歓迎に応じて、1年生からお礼の言葉と歌が披露されました。歌は「ドキドキドン！一年生」という楽しい歌を一部振り付けを入れて、元気に歌ってくれました。



境野の幼・小・中学校は、「境野スクールズ」と称して、学校間の連携を深めています。

「幼・小・中の連携」については、国の中央教育審議会でも取り上げられ、「例えば幼稚園では年長児が年少児をケアして、せっかく伸びているところに、小学校に入学するといきなり低学年だということで手取り足取り、赤ちゃん扱いされてしまう。そのあたりの接続をうまくやり、幼児教育で伸びた力というのを、しっかり小学校教育は受け止めて、さらに伸ばしていくということが重要である。」というような議論が行われたそうです。

境野スクールズでは、幼稚園で「アプローチ・カリキュラム」を作成し、園児の自立を目指して意図的・計画的な保育を行っています。また、小学校では「スタート・カリキュラム」を作成し、新入学児童の幼稚園での育ちを活かし、主体的に自己を発揮しながら小学校生活になじめるよう支援しています。



迎える会での1年生のお礼の言葉や歌を聞くと、歌い方や言葉への気持ちの込め方などに、幼稚園での育ちや主体的に自己を発揮している様子がうかがえました。

きっと、すぐに慣れ、楽しく充実した学校生活を送っていくことでしょう